

住民評価による湯けむり景観の保全に関する課題の導出（その1）

—重要文化的景観の保全活用に関する研究—

準会員 ○野本 昂*¹ 正会員 姫野 由香*² 松本 彩花*³
牛 苗*³ 佐藤 誠治*⁴

7.都市計画—6.景観と都市設計 都市計画
文化的景観 生活・生業 湯けむり 温泉

1 研究の背景と目的

2005年に文化財保護法が改正され新たな文化財の一類型として文化的景観^{注1)}が定義された。文化的景観の中でも、特に我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないものは、重要文化的景観として選定される。2012年9月、大分県別府市の鉄輪・明礬温泉地区（以下、鉄輪、明礬とする）における「湯けむり景観」は、人々の生活・生業における温泉資源の多様な利用とその資源の取り組みが評価され、重要文化的景観に選定された。

この地区を対象とした既往研究^{1)~3)}では、文献調査⁴⁾、ヒアリング調査、住民および外来者の意見抽出、行動軌跡調査により、文化的景観を構成し得る景観構成要素の特徴を明らかにしている。これらの事項から、地区住民及びこの地区に関わる人々は、生活・生業のために温泉資源を利用し、現在の「湯けむり景観」が成立していることが明らかとなった。つまり、この地域の景観を保全するためには、単に景観を構成する各要素を保存するだけでなく、人々の生活・生業を理解し、温泉資源利用を一定のルールの下で継続できる環境が必要である。また、重要文化的景観に選定された「湯けむり景観」を、地区住民と外来者がどのように認識しているか把握することは、今後の文化的景観の活用と保全に関して有用な知見となる。

本研究では、地区住民と外来者が温泉資源をどのように利用しているかといった、温泉資源の利用実態を把握し、それらの温泉資源の利用を継続するための課題を明らかにする。さらに、重要文化的景観に選定された事実の認知度を把握することで、「湯けむり景観」保全と活用の方向性を示すことを目的としている。

2 研究の方法

温泉資源の利用実態を把握するために、地区住民については地域に属する各団体にグループヒアリング調

査を行い、外来者についてはアンケート調査を行う。本報その1では、グループヒアリングの結果をもとに、地区住民の温泉資源の利用実態を把握する。さらに、「湯けむり景観」が重要文化的景観に選定されたことについての認知度を把握し、「湯けむり景観」保全の方向性を検討する。

3 対象地区について

別府八湯^{注2)}の一つである鉄輪（図1）は、地区内の至る所から湯けむりが立ち上り、温泉、地獄釜^{注3)}、地獄^{注4)}など温泉資源が豊富に存在する。1270年代から湯治場として栄え、現在でも貸間旅館などの宿泊施設が軒を連ねる。同じく別府八湯の一つである明礬（図3）は、湯治場としてだけでなく、1670年代からミョウバン、1720年代から湯の花^{注5)}の採取が行われてきた地区であり、重要無形民俗文化財^{注6)}である湯の花の製造を行う湯の花小屋^{注7)}を含む景観が存在する。



図1 鉄輪温泉地区



図2 明礬温泉地区

4 地区住民の温泉資源利用の実態

4-1 グループヒアリング調査概要

重要文化的景観の保全対象地区を研究対象とする。グループヒアリング調査は、地元のNPO法人1団体と、重点景観計画区域の中に存在する生活環境維持に取り組む6つの自治会と、既往研究⁵⁾をもとに、まちづくりに取り組む5つの地域団体の計12団体101人を対象として、調査を行った（図3、表1）。1自治会2団体については、グループヒアリングが困難であったため、個別にヒアリング調査を行い利用状況、意向を把握した。

表1 対象団体の属性

団体名称	ヒアリング対象人数	構成員数	属性内容	活動の目的			
				生活環境維持	商業・観光関係	文化・歴史関係	
別府市 NPO法人 別府八湯トラスト	5	150人	別府市民	●	●	●	
鉄輪温泉地区	自治会	御幸自治会	12	※	地区住民	●	
		鉄輪上自治会	15	100世帯	地区住民	●	
		井田自治会	5	35世帯	地区住民	●	
		鉄輪東自治会	14	550世帯	地区住民	●	
		北中自治会	10	500世帯	地区住民	●	
	地域団体	鉄輪愛耐会	16	110人	地区住民主体とする関係者		● ●
		かんなめ会	6	6人	旅館の女将	●	● ●
		鉄輪旅館組合	6	30件	旅館関係者		●
		鉄輪商工会	2	47人	商業関係者		●
		明礬温泉地区	9	52世帯	地区住民	●	
地域団体	明礬温泉湯の花製造技術保存会	1	4件	旅館関係者		● ●	

※・・・不明な事項
構成員数については自治会は世帯数、旅館で運営している地域団体は件数、その他の地域団体は人数で示す

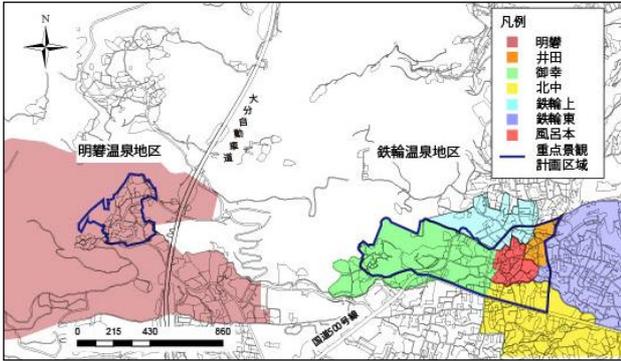


図3 研究対象地区

4-2 温泉資源利用の傾向

生活と生業の2つの場面において、温泉資源利用人数とその利用率をそれぞれ整理した(表2)。生活での温泉資源の利用は、10団体の利用率が100%であり、全体で約92.1%の人が温泉資源を利用していることがわかる。このことから地区住民は日常的に温泉資源を利用しているといえる。生業での温泉資源の利用は、全体で約28.7%の人が温泉資源を利用していることがわかる。地区の範囲が重点計画区域内にある「井田自治会」、「明礬自治会」と、重点計画区域に70%以上かかる「御幸自治会」の3自治会は、利用率が約60.0%、22.2%、33.3%であり、他の自治会に比べ高い傾向にある。また、温泉資源の利用用途別に利用人数を整理した。(表3)。10種の利用用途が確認でき、住民が多様に温泉資源を利用していることがわかる。生活、生業の両場面において「浴用」の割合が100%、65.5%であり最も高い。生活では、「浴用」に次いで地獄釜を使った「蒸し物用」の割合が11.8%であり、その他の利用も全体的に低い傾向にある。このことから、地区住民の生活での温泉資源の利用は「浴用」が中心であることがわかる。生業では、「浴用」に次いで「蒸し物用」や建物内部に蒸気を取り込む「暖房用」が55.2%、41.4%

表2 生活・生業における温泉資源の利用人数と利用率

団体名称	ヒアリング対象人数 A	利用場面			
		生活		生業	
		利用人数 B	利用率 A/B(%)	利用人数 B	利用率 A/B(%)
別府八湯トラスト	5	5	100.0	2	40.0
御幸自治会	12	12	100.0	4	33.3
井田自治会	5	5	100.0	3	60.0
鉄輪上自治会	15	15	100.0	0	0.0
鉄輪東自治会	14	14	100.0	0	0.0
北中自治会	10	4	40.0	1	10.0
鉄輪愛耐会	16	14	87.5	2	12.5
かんなめ会	6	6	100.0	6	100.0
鉄輪旅館組合	6	6	100.0	6	100.0
鉄輪商工会	2	2	100.0	2	100.0
明礬自治会	9	9	100.0	2	22.2
明礬温泉湯の花製造技術保存会	1	1	100.0	1	100.0
合計	101	93	92.1	29	28.7

表3 利用用途別温泉資源利用人数

利用用途	利用場面			
	生活		生業	
	人数	割合a/b(%)	人数(b)	割合a/b(%)
浴用	93	100.0	19	65.5
蒸し物用	11	11.8	16	55.2
飲用	0	0.0	1	3.4
温熱栽培用	1	1.1	0	0.0
暖房用	9	9.7	12	41.4
湯の花用	0	0.0	3	10.3
乾燥用	2	2.2	2	6.9
洗濯用	3	3.2	1	3.4
炊事用	4	4.3	1	3.4
湯たんぽ用	2	2.2	0	0.0
利用人数(a)	93	-	29	-

の割合を占める。このことから、「浴用」と兼用して「蒸し物用」や「暖房用」に温泉資源を利用していることが推察できる。また、多様な温泉資源の利用は、主に生業の営みにより支えられていることもわかる。

4-3 温泉資源利用継続における課題

地区住民によって温泉資源の利用継続における課題が合計113件挙げられたが、これらの意見は大きく6つに分けることができる(表4)。最も多く挙げられた課題は、温度が高くて温度管理が難しい、源泉を管理するために維持費がかかるなどの「維持・管理・運営の課題」が36件(31.9%)であり、温泉資源の利用を継続するうえで、最も重要な課題であるといえる。次いで、湯けむりの蒸気で電化製品が故障する、湯けむりの成分で自動車が錆びる、湿気で家が傷むなど、「湯けむりによる弊害」が32件(28.3%)挙げられている。これは全団体に挙げられた課題である。このことから、湯けむりが両地区で生活・生業の継続を困難にしている側面もあることがわかる。また、生業での利用率が高い「かんなめ会」、「鉄輪旅館組合」、「明礬温泉湯の花製造技術保存会」では、「源泉の枯渇・資源への懸念」や「維持・管理・運営の課題」が多く挙げられる傾向にある。

表4 地区住民の温泉資源利用を継続するための課題と提案

団体名称	課題											合計	提案						合計	
	泉源の枯渇・資源への懸念	維持・管理・運営の課題			逃げむりによる被害					利用者の減少	利用時の不満		その他	資源の利活用	サービスの向上	利用を促進する施設整備	イベントの開催	維持・管理面の改善		その他
		維持費がかか	管理が難しい	その他	電化製品が壊れる	自動車・金物が壊れる	家が傷む													
御幸自治会	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	7	1	0	0	0	0	1	1	3
井田自治会	2	1	1	0	1	2	1	1	1	1	1	11	3	2	2	0	0	0	0	7
鉄輪上治会	1	1	0	0	1	1	0	2	3	1	10	2	4	0	0	0	0	0	0	6
鉄輪東治会	0	1	2	0	1	1	1	0	0	0	6	1	0	2	0	0	0	0	0	3
北中自治会	2	0	3	0	2	1	1	3	2	0	14	3	1	4	0	0	0	0	0	8
明礬自治会	0	0	0	0	2	1	1	3	2	1	10	0	0	2	1	2	0	0	0	5
鉄輪愛耐会	0	3	3	0	1	1	1	0	1	0	10	3	1	0	0	1	2	0	0	7
かんなめ会	3	3	3	1	1	1	0	1	1	0	14	2	1	1	0	3	1	0	0	8
鉄輪旅館組合	2	3	2	0	1	1	0	0	0	0	9	3	0	0	0	0	1	0	0	4
鉄輪商工会	0	0	0	0	2	0	0	2	0	1	5	0	3	0	1	0	0	0	0	4
明礬温泉湯の花製造技術保存会	1	1	0	3	1	1	1	2	0	0	10	1	0	1	1	0	1	0	0	4
その他 別府八湯トラスト	1	2	2	0	1	1	0	1	1	0	9	2	0	0	3	0	0	0	0	5
合計	14(12.4)	36(31.9)			32(28.3)					15(13.3)	11(9.7)	5(4.4)	113(100.0)	21(32.8)	12(18.8)	12(18.8)	6(9.4)	7(10.9)	6(9.4)	64(100.0)

4.4 温泉資源利活用への提案

地区住民によって温泉資源の利用を継続するための提案が合計 64 件挙げられたが、これらの意見は大きく 6 つに分けることができる (表 4)。最も多く挙げられた提案は、浴用利用以外での温泉資源の利用を奨励する、捨て湯を再利用するなどの「資源の有効活用」に関する提案が 21 件 (32.8%) であり、鉄輪地区に多い傾向がある。これは鉄輪地区に「泉源の枯渇・資源への懸念」の課題が 13 件/14 件と多く挙げられたことが関係していると考えられる。次いで、住民向けに安く温泉資源を提供するなどの「サービス面の向上」と温泉プール・温泉博物館・日常的に温泉資源と関わることができる場所をつくるなどの「利用を促進する施設整備」に関する提案が 12 件 (18.8%) ずつ挙げられた。つまり、地区住民は、4.3 で挙げた「維持・管理・運営が課題」の改善よりも、温泉資源を有効活用し「日常的に利用したい」という意向が明らかとなった。

5 重要文化的景観の認知度に基づく保全の方向性

5-1 重要文化的景観の認知度

地区住民の重要文化的景観に関する認知度として、「選定された事実の認知」とその「評価内容の認知」を調査した。全体的に「選定された事実の認知」は 70% を超え、高いといえるが、「評価内容の認知」では約 70% が理解していなかった。このことから、地区住民は重要文化的景観に選定されたことは把握しているが、内容までは理解できていないことがわかる。また、各団体の認知度をみると全員が認知している団体が「北中自治会」、「鉄輪旅館組合」、「明礬自治会」、「明礬温泉湯の花製造技術保存会」の 4 件と全体の約 30% である。また、生活の担い手である住民の認知は今後の景観維持においても重要であり、住民への周知は大きな課題である。

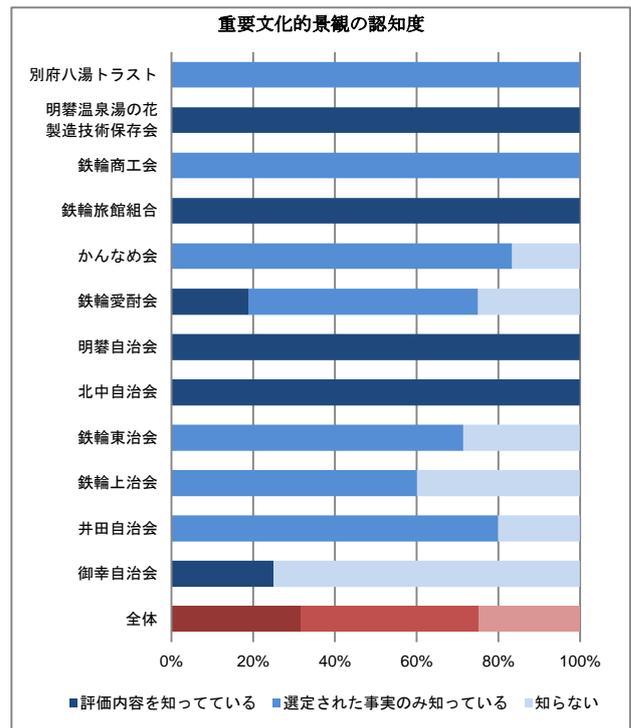


図4 重要文化的景観の認知度

5-2 周知するための課題

地区住民によって重要文化的景観について周知するための課題が、合計 49 件挙げられたが、これらの意見は大きく 5 つに分けることができる (表 6)。最も多く挙げられた課題は、温泉資源を幼いころから利用し、日常的にあることが当然のものとして考えているため湯けむりを意識しない、景観というよりも温泉資源を大切にしているなどの「価値ある『景観』として認識が困難」という課題が 17 件 (34.7%) 挙げられた。この課題については、鉄輪東自治会を除く全ての団体に 1 件以上挙げられている。このことから、生活の中での利用率が 92.1% であり日常的に利用しているため、重要文化的景観の認知度が「選定された事実のみ知っている」や「知らない」の割合が大きい原因になっていると考えられる。次いで、文化的という言葉が難し

表5 重要文化的景観周知するための課題と方法

団体名称	課題					合計	方法					合計	
	制度・言葉が難しい	価値ある景観として認識が困難	役所の広報に対する不満	その他の広報に対する不満	周知のための施設・設備がない		湯けむりの演出の方法の改善	テレビ・インターネット	写真・雑誌・パンフレット	人の説明・ロコミ	イベントの開催		周知のための施設・設備をつくる
御幸自治会	1	1	3	0	0	5	1	0	2	0	1	2	6
鉄輪上自治会	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	2	0	3
井田自治会	1	1	0	1	0	3	0	2	0	1	0	1	4
鉄輪東自治会	0	0	1	1	2	4	3	5	0	0	1	0	9
北中自治会	0	2	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	4
明礬自治会	0	1	0	2	3	6	0	0	0	2	0	3	5
鉄輪愛護会	2	2	1	1	0	6	0	2	2	3	0	0	7
かんなめ会	2	2	0	1	0	5	0	2	6	0	1	0	9
鉄輪旅館組合	1	2	0	0	1	4	0	2	2	0	1	0	5
鉄輪商工会	1	1	0	1	0	3	0	0	0	1	2	0	3
明礬温泉湯の花製造技術保存会	0	1	0	2	3	6	0	1	0	0	1	0	2
別府八湯トラスト	1	2	0	0	0	3	1	0	2	3	0	0	6
合計	9(18.4)	17(34.7)	5(10.2)	9(18.4)	9(18.4)	49(100.0)	6(9.5)	17(27.0)	15(23.8)	10(15.9)	9(14.3)	6(9.5)	63(100.0)

い、よくわからないなどの「制度・言葉が難しい」と、広報が市内でとまっている、集会をしても人が集まらないなどの「広報に対する不満」と、看板や温泉博物館などの「周知するための施設・設備がない」が9件(18.4%)挙げられ課題とされていた。

5-3 周知するための方法

地区住民によって重要文化的景観を周知するための方法の提案が合計63件挙げられたが、これらの意見は大きく6つに分けることができる(表6)。最も多く挙げられた周知の方法は、CMや旅館のサイトなどの「テレビ・インターネット」による宣伝が17件(27.0%)挙げられた。一方、「テレビ・インターネット」が挙げられなかった「別府八湯トラスト」、「御幸自治会」、「鉄輪上自治会」、「鉄輪商工会」、「明礬自治会」では、体験としてその人の記憶にのこすために「人の説明・ロコミ」や「イベントの開催」を提案している。次いで、「写真・雑誌・パンフレット」による宣伝が15件(23.8%)挙げられた。あまり大きな差は見られず、周知の方法は多様であるといえる。

6 総括と今後の課題

本報では、両地区に存在する自治会と地域団体にグループヒアリング調査を行うことにより、温泉資源の利用実態を把握し、温泉資源の利用人数と温泉資源の利用を継続するための課題と対策を明らかにした。生活・生業の中で地区住民は、温泉資源の維持・管理・運営に課題を感じているが、それ以上に資源を有効活用し、温泉資源の利用を継続したいと願っていることがわかった。また、重要文化的景観の認知度を把握し、

周知するための課題と方法を明らかにした。地区住民は、重要文化的景観に選定されたことは認知しているが、その内容までは理解できていないこともわかった。

「湯けむり景観」の保全するためには、温泉資源の利用を継続は重要である。そのための課題解決のサポートをすることや、資源を有効活用することが、重要であるといえる。また、提案された方法を活用し専門家の力を借りながら、「湯けむり景観」の価値や内容を地区住民向けにわかりやすく伝えていくことも課題である。別府市の温泉資源の利用は、地区住民のみの利用では成立していないため、その2ではアンケート調査により外来者の温泉資源利用の実態を把握する。

【補注】

- 注1) 文化的景観「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの(文化財保護法第二条第一項第五号より)」
- 注2) 別府八湯「別府市内の8つの代表的な温泉地の総称であり、浜脇・別府・亀川・鉄輪・観海寺・堀田・柴石・明礬温泉を指す」
- 注3) 地獄釜「温泉の蒸気熱を利用した加熱調理装置」
- 注4) 地獄「極めて高温の温泉が大量に湧出する源泉地帯」
- 注5) 湯の花「湯の花小屋と呼ばれる瓦葺小屋を建て、小屋の中に青粘土を敷き詰め粘土から析出し結晶化したもの」
- 注6) 重要無形民俗文化財「平成18年3月に国に指定された。」
- 注7) 湯の花小屋「湯の花を精製するための小屋。内部の温度を一定に保ち雨漏れせず、蒸気中の水分を藁屋根が水滴とならず、屋外へ放出する。」

【参考文献】

- 1) 福井彩乃, 佐藤誠治, 姫野由香「古写真にみる景観変容と選考景観の構図的特性 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1 分冊, pp.981~982, 2009.8
- 2) 森下泰敬, 佐藤誠治, 姫野由香「景観構成要素と生活・生業の関係性の導出—別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究—」日本建築学会九州支部研究報告第50号1, pp.309~316, 2011.3
- 3) 松本彩花, 森下泰敬, 姫野由香, 佐藤誠治「生活・生業と温泉資源の関わりにより創造される景観の将来像の導出—別府市明礬温泉地区湯けむり重点景観計画策定に関する研究—」日本建築学会九州支部研究報告第51号3, pp.485~488, 2012.3
- 4) 別府市誌, 第1巻~第3巻
- 5) 別府市生涯学習課 平成21年度 湯けむり景観保存計画 策定に関する研究報告書

*1 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生
 *2 大分大学工学部福祉環境工学科 助教 博士(工学)
 *3 大分大学大学院工学研究科博士前期課程
 *4 大分大学工学部福祉環境工学科 教授 工学博士

Undergraduate Student, Oita Univ.
 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., DrEng
 Graduate Student, Oita Univ.
 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., DrEng